

前期

文系

平成 29 年度入学試験学力検査問題

地理歴史・数学 (人文・社会系, 経営学系 A 区分—90 分)

答案用紙

- ・日本史 3 枚
- ・世界史 2 枚
- ・地理 3 枚
- ・数学 2 枚

注 意

1. 監督員の合図があるまで, 問題の内容を見てはいけません。
2. 数学は, 筆記用具のほか定規, コンパスの使用を認めます。
ただし, 分度器の使用は認めません。
3. 受験番号及び氏名は, 答案用紙の所定欄に必ず記入してください。

(例) 受験番号 1234567X の場合 →

			1	2	3
4	5	6	7	X	

4. 解答には黒鉛筆またはシャープペンシルを使用し, 必ず配付された答案用紙に記入してください。なお, 世界史, 数学は裏面にも解答欄があるので注意してください。
答案用紙には, 解答に関係のないことを記入してはいけません。
5. 字数指定の設問で解答欄にマス目が用意されている場合, アルファベット及び数字は, 1 マスに 2 字記入しても構いません。
6. 問題は次に示したページにあります。
 - ・日本史 1 ページ~10 ページ
 - ・世界史 11 ページ~18 ページ
 - ・地理 19 ページ~30 ページ
 - ・数学 31 ページ~32 ページ
7. 試験中に不鮮明な印刷等に気付いた時は, 手をあげて監督員に申し出てください。
8. 答案用紙を切り取ったり, 持ち帰ったりしてはいけません。
9. 問題冊子の余白は利用可能ですが, どのページも切り離してはいけません。
10. 問題冊子は, 持ち帰ってください。また, 試験終了時刻まで退室できません。

日 本 史

1 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

ヤマト王権は5世紀頃から、中国の皇帝に朝貢する目的を、日本列島支配の正統性を示す印や銅鏡を得るような形から、別の目的に転換させていった。それは、国づくりに必要な社会制度や技術を整備するものであった。その結果、5～6世紀の日本列島の社会には、新しい技術が導入され、それを担う技術者集団が作られたり、漢字による記録や文書作成を担う集団が作られたりした。

つづく6世紀末から7世紀前半に、奈良県飛鳥地方には大王の王宮や豪族の邸宅が営まれたり、国家経営にかかる諸施設が作られたりするなど、都としての姿が整っていった。同時期には、百済僧観勒によって暦法が、高句麗僧曇徴により紙や墨づくりの技法が伝えられるなど、国をおさめるために必要な知識や技術も導入された。こうして、ヤマト王権は東アジア世界における外交機能や軍事組織を有する政権へと移行していった。

この飛鳥時代に建設が進んだ寺院の伽藍建築は、それ以前の古墳にかわって、次第に大王や豪族の権威を象徴する存在となっていた。

国宝に指定されている飛鳥時代の文化を代表する建築物や美術作品としては、法隆寺の金堂・五重塔・中門・回廊などの建築物、法隆寺玉虫厨子・中宮寺天寿国繡帳などの工芸品がある。また、飛鳥寺釈迦如来像・法隆寺金堂釈迦三尊像、中宮寺半跏思惟像・広隆寺半跏思惟像などの仏像もある。

問 1 下線部(a)の新しい技術はどのような人によってもたらされたか、また、ヤマト王権は具体的にどのような組織をつくったか、60字以内で説明しなさい。

問 2 下線部(b)の建築に見られる、それ以前の建築物と異なる特徴を、20字以内で説明しなさい。

問 3 この時代の仏像には、対比的な2様式がある。下線部(c)の仏像の特徴を、20字以内で説明しなさい。

2 次の史料を読み、以下の設問に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところがある)。

史料A

今日、女御藤原威子をもって皇后に立つるの日なり。前太政大臣の第三娘なり。一家に三后を立つるは未だかつてあらず。(中略)①太閤、下官を招き呼びて云く、「和歌を読まん欲す。必ず和すべし。」てえり。(中略)②「此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば」。余申して云く、「御歌優美なり。酬答に方無し。満座只この御歌を誦すべし。」

(『小右記』寛仁2年(1018)10月16日条)

史料B

第七十二代、第三十九世、院。諱は貞仁、後三条第一の子。(中略)法勝寺を建て九重の塔婆なども昔の御願の寺々にも越え、ためしなきほどにぞ造りとのへさせ給ける。こののち殊にうちつづき御願寺をたてられしを、造寺熾盛のそしり有き。造作のために諸国の重任など云こと多くなりて、受領の功課もただしからず。③封戸・荘園あまた寄せおかれて、誠に国の費とこそなり侍りにしか。(中略)この御代には院にて政を聞かせ給へば、^(注)執柄はただ職にそなはりたるばかりになりぬ。されどこれより又古きすがたは一変するにや侍けん。執柄世を行なわれしかど、宣旨・官符にてこそ天下の事は執行せられしに、此御時より院宣・を重くせられしによりて、在位の君又位にそなはり給へるばかりなり。世の末になれるすがたなるべきにや。

(『神皇正統記』)

(注)執柄；摂政・関白のこと。

- 問 1 史料 A は、藤原実資という貴族が記した日記の一部である。下線部①②は同一人物を指している。その人物の名前を答えなさい。
- 問 2 史料 B は、北畠親房が南北朝期に皇位継承の正統性を示すために書いた書物の一部である。史料文中の と に入る語句を答えなさい。
- 問 3 史料 A に記された時期の政治形態の特徴と、史料 B の時期の政治形態との違いについて、史料 B に記された内容を参考として 120 字以内で説明しなさい。
- 問 4 史料 B の下線部③は、多くの寺院や離宮の造営の費用調達に関わることが述べられている。その費用調達のためにこの時代に盛行したことは何か、答えなさい。
- 問 5 史料 B に記された政治形態が、これ以後約 100 年続くなかで、地方においては、一国内の編成が大きく変化していった。どのように変化したか 80 字以内で説明しなさい。

3 次の文章と史料を読み、以下の設問に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところがある)。

8代将軍吉宗は、漢訳洋書の輸入制限緩和^(a)や、青木昆陽らにオランダ語を学ばせるなど、国内での蘭学(洋学)の発展の礎となる政策を進めた。また、18世紀の学問・思想は、幕府がその発展に貢献した蘭学だけでなく、逆に幕府・藩の財政難や農村の荒廃などの影響を受けたものもあった。下記の『自然真営道』は、その一例となるが、ここでは、当時の社会体制に対する著者の見解が示されている。

史料

上無レバ下ヲ責メ取ル^(注1)奢欲モ無ク、下無レバ上ニ諂ヒ^(注2)巧ムコトモ無シ、(中略)各耕シテ子ヲ育テ、子^{さかん}壮ニナリ、能ク耕シテ親ヲ養ヒ子ヲ育テ、一人^{これ}之ヲ為レバ^す万人之ヲ為テ、^{むさぼ}貪り取ル者無レバ、^(注4)貪ラルル者モ無ク、^(注4)転定モ人倫モ別ツコト無ク、^(注4)転定生ズレバ人倫耕シ、此ノ外一点ノ私事無シ、是レ自然ノ世ノ有様ナリ、

(注1)過度の欲望 (注2)相手の機嫌をとる (注3)ここでは不正するの意
(注4)天地

洋学の興隆は医学などにこれ以降も見られたが、18世紀後半には塙保己一による『群書類従』の編修・刊行など日本古典の研究が深まり、国学の発達^(b)も見られた。また、これ以降の文化に目を向けると、18~19世紀は出版・俳諧・浮世絵などの興隆があった。この時期の文化の特徴は、その担い手が下層の民衆にも拡大しており、またこれらは交通網の発達などもあり、全国各地に伝えられた点にある。このような庶民への文化の普及は、名所見物や物見遊山など庶民の旅^(c)をさかんにした。

- 問 1 下線部(a)に関連して、吉宗がこの政策を実施した目的は何か、また、それはどのような内容に関わる書籍(漢訳洋書)の輸入を制限したか、制限された理由も含め 80 字以内で答えなさい。
- 問 2 史料では、現在の社会体制の何を批判し、それに対し、どのようにすることが最も自然な社会体制となると記しているか、80 字以内で答えなさい。
- 問 3 下線部(b)に関連して、国学の発達はなぜ古典研究により深められることになったのか、国学の内容を踏まえて 80 字以内で答えなさい。
- 問 4 下線部(c)の一例として、主人や親の許可を得ずに家を出て旅をする場合もあったことから、抜参りと呼ばれることもある旅がある。この旅と訪問先の名称及び、江戸時代を通じてのこの旅の特徴について 50 字以内で答えなさい。

4 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところがある)。

明治十四年の政変後に大蔵卿に就任した松方正義は、緊縮財政を進めるとともに増税により歳入増加をはかり、不換紙幣を処分して正貨を蓄積した。さらに1882年には貨幣信用制度の確立を急ぐために を設立して唯一の紙幣発行銀行とした。しかし、これらの政策は激しいデフレーションを引き起こし、日本は深刻な不況に陥ったのである。^①

デフレーションが収まると各地で会社を設立する動きが高まっていった。例えば鉄道業では1881年に華族を主体として設立された が成功すると、民営鉄道が次々と建設されるようになった。また、紡績業では1883年に渋沢栄一らが設立した が開業し、1万^{すい}鍾の大規模操業を行い成功すると、商人による会社設立の動きを刺激し、産業界が活況を呈するようになった。1890年には、こうした企業勃興の反動として恐慌が発生したが、その後、日清戦争に勝利したことにより財政規模は一気に拡大し、政府は戦後経営に着手して軍備拡張や産業振興に力を入れていった。^②

1904年には満州・朝鮮の支配をめぐる日露戦争が勃発し、多大な犠牲を出して終結した。日露戦後経営は軍備拡張を中心に進められ、政府が日清・日露両戦争を通して軍事輸送の重要性を痛感したこともあり、1906年に が制定され、経営を一元化して輸送の効率化がはかられた。

問 1 文中の a から d に入る語句を答えなさい。

問 2 下線部①に関して、この不況がもたらした農民層の変化について、物価の変動と、地租を納める農民の生活との関係に留意しながら 80 字以内で説明しなさい。

問 3 下線部②の政府の戦後経営に関し、次の日清戦後の金融制度に関する史料を読み、以下の問に答えなさい。

史料

償金ハ戦勝ノ結果ニ依リ得タルモノナルニヨリ、之ガ使途ニ付テハ最モ慎重ナル注意ヲ加ヘ、(中略)国家永久ノ利益ト為ルヘキモノニ使用シタリ、(中略)

戦後、国運ノ隆興ニ伴ヒ商工業ハ益々発達シ、外国貿易ハ漸次盛運ニ向ハントスルニ際シ、銀貨ノ下落ハ我貨幣制度ノ基礎ニ動揺ヲ与フルコト甚シク、為メニ商工業ハ攪乱セラレ外国貿易ハ阻害セラレントスルノ状況ヲ現ハシタルヲ以テ、(中略)幣制改革ヲ企図シ、遂ニ之ヲ決行スルニ至レリ

(『明治財政史』1)

(注) かき乱すこと。

問 史料中の幣制改革とは何か、改革で採用された制度の名称を記すとともに、この改革の元手と目的について、史料を参考にしながら 80 字以内で述べなさい。

5 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところがある)。

日本とアメリカの関係を歴史的に振り返ってみよう。近代日本は、アメリカなどの諸国との不平等条約のもとにあったが、20世紀に入り日本の国際的位置は大きく変わる。日露戦争後、中国における権益を手にした日本は、第一次世界大戦の時期に、中国に対して強硬な態度で臨んだ。そのころアメリカも満州を含む中国の市場を重視しており、それにより起こりうる日本との対立を調整する必要があった。

1920年代、中国をめぐる日米関係は比較的安定し、また北伐に対してはイギリスが中心となり、日米両国も軍力で対抗した。しかし次第に日本は満州支配を進め、アメリカとの対立も起こっていった。のち日本は中国への軍事的支配を強めた。さらにヨーロッパでドイツが近隣諸国を制圧すると、日本は東南アジアのある地域に軍を進め、アメリカとの対立もいっそう激化した。その翌年には日本はアメリカからの石油の供給を絶たれ、最終的には開戦を選択した。

1941年末から1945年夏までは日米関係の断絶の時代である。戦争が激化すると日本は戦意昂揚のため「鬼畜米英」などという言葉すら使うようになった。

敗戦を迎え、再びアメリカとの関係が強まっていった。日本は占領政策の下、それまでの政治・経済・社会諸制度を変えた。そして、アメリカなどとの講和が実現すると同時に、日米間の条約による新しい軍事的な関係が作られた。それはのちの改定を経て、こんにちに至るまでの両国の関係を規定している。

問 1 下線部(a)に関連して、第一次世界大戦の時期から大戦後にかけて成立した、日米間の取り決め、また日米以外の国も加わった取り決めを、二つあげなさい。

問 2 下線部(b)に関連して、このときの日本軍の派遣は、当時アメリカやイギリスなどが行っていた、ある政府(政権)に対する支援活動に対抗する目的もあった。その支援活動が行われた背景と、日本軍派遣の目的について、80字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(c)に関連して、次の史料は佐藤栄作首相の国会における発言である。

史料

〔(前略)しかし、私、沖縄自身がどういう用に使われるかということは、これは、サンフランシスコ条約等から見まして、わがほうがいろいろ希望を述べることはできません(中略)要求がましいことをする筋合いではない。しかし、日米間が友好関係でありますだけに、アメリカも日本の実情については十分の理解を持ってくれていると、かように思いますから、私どもも日本の国民感情を率直に披露いたしまして、そうして今後特に注意すべき点を申し伝えたわけではありますが(後略)〕(参議院本会議 1965年8月3日)

以上は、前ページの文章に登場するアジアのある地域に、アメリカが攻撃を加えたことに関して行われた発言である。日本の支配が終わったあとのこの地域の状況と、アメリカはなぜこの攻撃を行ったのかを説明しなさい。またその攻撃のために沖縄が使われたことに対して、なぜ「要求がましいことをする筋合いではない」のか、あわせて120字以内で説明しなさい。

問 4 下線部(d)に関連して、この条約改定時の首相の名前を答えなさい。